

感染症ニュース

No.249 2026/01/23

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

国内では、昨年5月ごろから、オミクロン株から変異した NB.1.8.1（通称：ニンバス「激しい喉の痛み」が特徴）が流行しているが、イギリスでは、同じくオミクロン株から変異した XFG.3（通称：ストラタス「声のかすれ」が特徴）が流行してきている。以前に比べると症状が軽くなり、受診せず行動し続けるため、流行が拡大しやすい。とはいえ高齢者は重症化しやすく、コロナによる入院者数は増加している。今後も高齢者の重症化予防のために、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

インフルエンザ

例年より早く、昨年11月からA香港型（H3N2型）の変異株「サブクレードK」が大流行していたが、現在はB型も流行している。ワクチン接種済みでも感染して発症する可能性はあり、感染予防策に加えて、栄養を摂り、休息・睡眠をとって、免疫力を落とさないようにすることが重要。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、コロナ明けから高水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても10日前後服用を続けないと腎炎などの合併症を併発する。

感染性胃腸炎

冬はノロウイルスなどによるウイルス性胃腸炎に要注意。ノロウイルスにはアルコール消毒は効かないので、石鹼による手洗いを徹底する。

水痘（みずぼうそう）

富山県では昨年、夏の初めに一時的な大流行があったが、冬になり再び流行している。ウイルスは空気感染で広がり、感染力が強いので、免疫が無いと、接触後ちょうど2週間で発疹等の症状が出現する。